

講師のご紹介

鶴田桃工さん

自助グループNABA代表 摂食障害経験者 精神保健福祉士

10代半ばで過食・拒食を発症。大学卒業・就職を経て専門医から「回復した」と太鼓判をもらったが、その後、食べ吐きがぶりかえし、万引き・家庭内暴力などで両親が家出、人生が極まる。1989年、「重症の鬼娘」としてNABAにつながり症状がとまる。1994年には仲間たちとともに息巻いて精神科医から独立し、代表となる。以来、「いいかげんに生きよう」を合言葉に、ミーティングだけでなく、会報発行や電話相談など幅広く活動をし、仲間たちとともに全国に向けて回復・成長のメッセージを発信し続けている。2005年からは、生きづらさに取り組む多くのピアサポートグループに呼びかけた『ピアサポ祭り』を企画開催するなどネットワークも大切にしてきた。

上岡陽江さん

ダルク女性ハウスコーディネーター ハームリダクション東京代表 精神保健福祉士。

10代から処方薬依存・摂食障害・アルコール依存を経験し、20代半ばで回復プログラムにつながる。1991年に薬物・アルコール依存をもつ女性をサポートするダルク女性ハウスを設立。依存症の母親とその子どものための包括的な支援に注力。

当事者への支援に加え、援助職者のための研修、グループワーク、スーパーバイジングなどにも従事。2018年より、東京大学熊谷晋一郎研究室にて連携研究員として、当事者研究事業に参加。

武藤 岳夫さん

熊本市出身。2000年佐賀医科大学卒業後、熊本大学医学部附属病院神経精神科、国立病院機構琉球病院を経て、2005年国立病院機構肥前精神医療センター精神科医師、2008年同センターアルコール・薬物依存症治療病棟医長就任。

2014年同センター依存症治療センター長。2023年医療法人横田会向陽台病院副院長就任。

著書（いずれも分担執筆）：

「新アルコール・薬物使用障害の診断・治療ガイドライン」新興医学出版社

「やさしいみんなのアディクション」金剛出版

「物質使用障害とアディクション臨床ハンドブック」星和書店

「やってみたくなるアディクション診療・支援ガイド」文光堂

「アルコール・薬物・ギャンブル・ゲームの依存ケアサポート」講談社 等

NPO法人熊本どんぐりのご紹介

2013年熊本市に開設。開設当初は男性の更生保護対象者やホームレス支援が中心であったが、2015年頃から女性の更生保護対象者やDV被害者支援など様々な困難や課題を抱える女性への支援に力を入れるようになる。

2019年、松永が代表理事に交代したことを機に女性支援に特化した支援事業を行うこととなる。

2018年から居住支援法人、2021年から女性専用の障がい者向け共同生活援助（グループホーム）を開設。

現在は熊本県の補助金を活用し、日中の居場所の提供、LINEを含むよろず相談の実施など女性たちのニーズに合わせて活動の幅を広げている。